



Re:短歌
TANKA
歌

51組 102名による
返歌をテーマにした短歌集

諏訪 灯×御殿山みなみ
きつね×深影コトハ
門脇篤史×道券はな
逢 × 知 己 凛
尼崎武×杉谷麻衣
新井蜜×酒井あんな
水沼翔太郎×泳二
岩田あを×山上秋恵
ム ル × 冬 泉
かしくらゆう×安西大樹
ひの夕雅×なぎさらさ
穂崎円×大葉れい
はだし×スコラブ
拝田啓佑×多田なの
蓮沼りんぐいね茂木×檀可南子
鳩麦×かつらいす
野村日魚×カリフォルニア檸檬
双葉屋ほいる×奈月遥

月 刻 × ユ チ コ
春森糸結×桜望子
秋 山 生 糸 × 湊 屋
千原こはぎ×天国ななお
笛地静恵×砺波 湊
森 緑 × 白 井 健 康
森本直樹×染野太郎
ナイス害×平岡直子

満島せしん×ナタカ
九条しょーこ×文車雨
しましましま×こりけり子
なつお×さやこ
長月優×たかはしりおこ
笹谷香葉×星野さいくる
瀬戸さやか×@kaizen_nagoya
たえなかず×嶋田さくらこ
民 生 × 木 蓮
田上連樟×黒井真砂
豊増 美晴×雨虎 俊寛
月の子×雀 來 豆
のつちえこ×杜崎アオ
犬飼あき×淡海わか
もりのさと×Y川
悠 佳 里 × ル オ
佐藤博之×西村曜
(お一人目のアカウント順)

Re:短歌

TANKA

51組102名による
返歌をテーマにした短歌集

佳丘一穂×東夏江実
榛 瑞穂×本山まりの
御糸さち×井倉りつ
みちか×町田もちこ
月丘ナイル×川庭多機構
小川けいと×大塚亜希
高橋 鳩×岐阜亮司
太田青磁×麦野結香

サマー、オーライ

この先に不安を覚えた夜が明けとりあえず今日も働いている

覚えてるふあんです、来るいちにちをいちにちとして片付ける肩

たぶん皆見えない荷物を背負ってる大きい背中も小さい背中も

夏ですしキャンプファイヤーもうもつと見えぬリュックを焼いてください

玄関のドアの向こうの音たちが夏を抱き止める覚悟を迫る

あれはセミ、あれは風鈴気がつけばさまあ、さまあとクーラーの息

がらごろん冷蔵庫から響く音きょう何度目かの氷が落ちる

量産型麦茶に消える氷らの流れ作業にやわらぐ不安

諏訪 灯 × 御殿山みなみ

@_skjudew

@tookat12

Time travel honeymoon

ピーマンを裂く



Time Travel Tax
君にだけ時間旅行税の二重課税の不満を漏らす

ピーマンの中に空洞 包丁の刺さりて入る光かきみは

ラスコーの壁画に私を描き足して本当は機嫌いいでしょう、キミ？

最後まで割れば見えなくなるひかりをおぼえておいてくれるあなたは

陽気見抜かれ笑いあってるその顔のまんまで記念写真を撮ろう

内奥に溜まる記憶をすくひとるおぼろにきみの映りてをれば

写らない私達だと忘れてるキミを透かして撮るオリオン座

種を掻きいだす手つきで思い出すふたり乗り損ねた観覧車

(オンザロックの水が溶ける) ねえやっぱホッキョクグマも見ておきたいな

ピーマンに詰めてゆく肉あひびきの肉を詰めれば粘つきて、指

体内に埋めた時計が動き出す楽しい旅ももうすぐ終わり

指をかける窪み少ないピーマンをやさしく破ってあばく晩夏^{ばんなつ}

両手からこぼれるほどのしあわせを未来の先の先の先まで

ひそやかにあなたがここにゐる日々のすきますきまに咲くばらの花

Depart for our century
離陸準備完了、眠そうなきみに寄り添い不変の月見

僕もよくやると慰められたとき鳩尾にふと咲くきんぼうげ

きつね × 深影コトハ
@00kitsune @cotoha_mikage

門脇篤史 × 道券はな
@508atsu @peter_pan_co

ラストノートからはじめよう

りりん、ってなる風鈴がきみの名を呼びかけているようで愛しい

青田風ほくの体を撫でるからきみにいますぐ逢いたいと啼く

呼び捨てがゆるされなくて「様」つきの手紙を風よさらってほしい

丁寧なひとつひとつの字をなぞりきみを抱く日を夢に見ている

「待ってる」はいつまでですかほんのりとラストノートが移った便箋

封を切りきみの香りに誘われ気づけばいつか高速の上

パーキングエリアの薄いコーヒーを舐めればキスするための唇

震えてる肩をふわりと抱きよせる柔い唇確かめたくて

少年と犬

わたくしは今なら表示価格よりさらに三万円引きの犬

夏休みはじめて暮らすこの町で寂しくないけど猫を飼うんだ

犬には犬の処世術 人間はしっぽを振ると喜ぶでしょう

ばあちゃんのハタキのようだウィンドウ越に見つけたこいぬのしっぽ

あれは招き猫のポーズ プライドが邪魔してお手が覚えられない

猫がすき でも不器用に宙を掻くきみを選んでみるのもいいか

わたくしは犬 わたくしはわんど鳴く しっぽを振れば舞いあがる空

もつきみに決めたってなぜ分かるんだちぎれるほどにしっぽを振って



逢 × 知己 凜
@ai_thankyou @Chikorin7

尼崎武 × 杉谷麻衣
@amagatak @kazanagistreet

私たちの双紙

恋猫を蹴飛ばす僕を振り向かず中将姫はだるまささんがこ

手を伸ばし転ばぬ先に支へてよ募る想ひに火照るからだを

本能寺の庭を真白きくちなはが這ひてあなたは濃姫の裔

くちなはの細き舌もてねぶられてとろけてしまふわれの柔肌

「雨あとの川で拾ったこの箸に櫛名田姫と刻まれてをり

八人の姫の心を欲しがりて八岐に裂けぬ大蛇の首は

ひと恋ひてはち切れむ胸押さへつつ人魚の姫は泡となりゆく

はち切れむ皮膚のしたで泡立ちて飲まるるときを待つ血潮かな

ワンセッション

板東英二をながらく見ない大阪で君と一緒に刺くゆで卵

新聞を床に広げている君は猫町を忘れた朔太郎

三面記事を二回読み上げゆで卵真上に投げて「せーの」で食べた

三面記事を食べたせいかな太陽がロールケーキのうずまきになる

オリックスとは折句ありがとうの略ハッピー・バースデーあなたもドームも似たようなもの

ぼくたちの幼い夢を育てたらできた童夢というダサイ何か

成田童夢も大阪のひと泳二さんロールちゃんでは何味が好き？

大阪で生まれた男汗だくで二枚目半「二」の役を演ず

新井蜜 × 酒井あんな
@arainitsu @sakai_anna

水沼朔太郎 × 泳二
@audelatwikeshi @Eshimada

喫茶黒猫

暮れてゆく空を指しながら黙り込む色を喻える言葉を持たずに

夕焼け色の紅茶をいつか飲んだよね古い喫茶であなたとふたり

はじめからこうなることはわかってて珈琲につける薄いくちびる

珈琲が濃くて静かな喫茶には大人ぶってた私とあなた

眠れずに冴える身体感覚を遮るような猫の大あくび

猫にしか話せなかったかなしみを珈琲の闇に混ぜ込んでみる

あなたには一種の薬となるだろう溶けゆくように忘れられるさ

ブラックの珈琲きりり あなたには伝えきれずに飲み干した夢

岩田あを

@AwoTrk

×

山上秋恵

@akimuroran

星体遊戯

君に想い届けと願う歌詠めば流星降らせる宇宙そらの返歌よ

ラッジョイ
愛戯の酔醒めやらず流星群空の向うに奔るに任せ

その髪に酔いしれ堕ちた夜だけを祝祭とする星の伝説

ぞろぞろと猫けたものを引き連れて架空の街に星を見る宴

猫町に売られ行く姉いもうとに流星雨とは涙か花火か

妹も姉もトミノも火の雨に撃たれ血を吐く終のまぼろし

星として生まれた星に人／猫として生まれて歌を歌として、今

彗星が戻りくる頃逢ひませう同じところでべつの姿で

ムル

@Books_Bartleb

×

冬泉

@etoileerrante1

黄昏を盗みませんか

暑いねと日陰に逃げる おしゃべりな陽射しに話聞かれたくない

錆び付いたオルゴールから海鳴りが聞こえる君が夜を開ければ

昼の月指で弾くの貴方から返事ひとつも飛んでこないし

鼻と鼻押し当ててみる夕波が陽をきれぎれに散らす束の間

ねえ次はどうしたいのと言いかけたページに入道雲の朧を

僕たちは円をさがして空を見る四角い闇を削り取りつつ

膨らます頬をあなたの指が突く朝が燃えだす傾いたまま

目隠しをする君の手に陽は沈み我べガスの大四辺形

かしくらゆう

@cassjuu



安西 大樹

@marginalman

くるりくるり

ポケットに君の左手誘い込む寒波は僕を勇者に変える

左手で右手を抱き締めていたい 大きくステップ、赤らんだ頬

ごめん僕は君の歩幅を知らなくてミニスカートに無理させていた

春風が誘った長さのスカートであなたとふわり飛ぶのもいいかも

跳ねている君はうさぎのようであり浴衣を着ても同じであった

「祭りだよ」「内緒だよ」って差し出した花火が照らすあなたの口許

口寂しい食欲の秋やり過ぎず君が差し出すガム、変な味

二人してぶどうのガムを膨らます弾ける午後は甘ったるくて

ひの夕雅

@croissant_hyuz



なぎさらさ

@spicetog



デイジー・デイジー

あおいあおい GoogleEarth の海底が今日も綺麗で海に行きたい

港まで道案内をしましょうかそれとも空を見上げましょうか

真空の宇宙で星は歌うこと それで恋人は君にいますか

恋人がいれば今ごろ夕焼けの青くかがやく火星にいます

ロケットは持ってないからでたらめな君の神話の続きをねだる

その星の祝福と罰ちはやぶるソースコードを盗んだゆえに

あかねさす百万ドルの残業で眠れぬ夜だ うたってよ、Shi

「子守唄」をウェブで検索してみます (いつものようにあなたの苦笑)

穂崎 円 × 大葉 れい

@golden_wheat

@lay_over

かなかな

2階からカップスープをとってくる音に紛れてゆく雨の音

旅行から置かれたままの手荷物がクルトンのよう寝そべる床で

見返せば写真のなかにふたりとも写っていないイルミネーション

電飾の色は写真でかがやいてそっちの機種も同じなのかな

機種変をすればなくなる傷に触れている あなたは眠ってるかな

もうすぐで1時を過ぎて眠れなくなるより前に買いに行く水

自販機であなたがきっと買いそうなひかりへ蛾とかあつまっていて

なまめるいひかりの雨で早足の理由はそれでじゅうぶんだった

はだし × スコップ

@hadashinomantai

@scope_scape

いい朝になる



レディ・グリーン・スリーブス

相傘は濡れてるほうが惚れてると言うけどこの傘ほんとに小さい

新しい傘を買おうねばらばらの未来のための貯金くずして

雨雲の向こうの月のうさぎから見たら僕たちふたりでしょうか

ふたりだよ うさぎはこの星のことをわたしたちの名前で呼んでるよ

僕たちを近似してみればこの星ではくらはほんの誤差でしかない

ひとつの星かと思ったら銀河で怖い どうせ誤差だし繋いでみる手

この世界僕たちだけになればいい 二人ぼっちになればいいのに

この世界ふたりきりでも真夜中は小声で話そう起こさぬように

ルッコラを育ててピザに添えたって未婚の場合おままごとです

ままごとで出された魚は緑色 「緑はススメ」と私が言った

仲直りする前に君がつくったロールキャベツの中がキャベツだ

かんぴょうでなく爪楊枝が刺さってるキャベツは本気かもしれないよ

筒井筒袖にしゃがり童貞の緑のためきつつく女狐

お前こそ嵐が好きなバツイチの奈良漬けと結婚しやがって

僕の手はきゅうりで君は肌つやの美しい漬け物石だった

心ゆくまで手合わせをしたかった 野原の中の一木道で

拝田啓佑

@haidaksk



多田なの

@OhhhtaNano

蓮沼りんぐいいね茂木

@hasnun_mhd



檀可南子

@tankana

喉の奥には

一言が喉をのぼっていきなくて炊けた白米切り混ぜるだけ

僕だけじゃないはずなのに問いかけてみようとすれば消えてゆく湯気

忘れられ涙の跡は残らずにきちんと悲しむことも出来ない

くるしさに向き合う術を見失い言葉はかりを振りまいている

とりどりの「あなたらしさ」で覆われて色を忘れた私を見てよ

ほろほろとこぼれた本音。君だから、だから好きだと今頃気づく

気がつけばあなた好みの白米をまた炊いている湯気に包まれ

こうやってここへ戻って来れたこと君の言葉に触れた温もり

鳩麦 × かつら いす

@HatoTrnk

@_v_VTflu

窓の中

生きているものは皆ひかっただ星の暮らしを教えてくれる

空調が動きつつける部屋の中ひかりに寄りかかりながら聞いている

「百年後もこうしてゐるって思う」「うん」海から窓につよく吹く風

「うん(だれもいなくならない百年の バニラアイスがゆるく溶けてる)」

生きるのと喋ることは同じこと。会いたいこと話したいこと光時間ぜんぶ、きみから生まれる

話すことと放すことは同じこと？ それきり口をつぐんでしまっ

生きててもひかることはない星にいていま窓の外、花火流れた

落下して花火が消える あ……と声が増れる

野村日魚子 × カリフォルニア檸檬

@hnyzn

@_j_aao

百合の葉に月宿る

ハンカチをひらり落として知らぬふり 貴女わたしを灰姫にして

あこがれの人に借されたハンカチがお揃いでした 洗って返そう

いもうとの香りのついたハンカチよ君のものだと内緒にしたい

レアチーズわたし好みの白と赤 お口に合うかどきどきしてる

レアチーズあのような白と赤 あかくするのはもちろん私

お湯にまう茶葉をみているはずですわわたしをみるそんな、え、まさか

恥じらって泳ぎだす目もかわいくて 茶葉の様子も気にならないの

くちもとをかえしたばかりのハンカチでぬぐわれおもうキスがよかった

金魚鉢のプラネット

水面に中指浮かす風の夜ゆれているのはひれか世界か

金魚鉢越しのかみさまがぼくへと触れようとしながら泣いている

地下道で叫びたかったふたこともえさに混ぜたの こい、いいえ事故

火のようなことばを火のようにゆらいで食むよ。あなたがうれしがるから

木星の月の海まで泳ごうかことばの熱が身を焼くまえに

土砂降りのような涙だ外界を知らないぼくへはじめての雨

天気予報雨のち晴れにできたならきみのうろこをひとつください

海という雨のうつわは満ち空にぼくらをゆるすような太陽

双葉屋ほいる

@hoiru_utajomi



奈月遥

@you_natskey

月刻

@horlogedelaine



ユチコ

@yuchikosan

くんには、郵便です



Goddess

望子様お元気ですかと書き出した他人行儀の便せんまるめる

いくたびか書き直した痕便箋の最後にやつと君のまるる文字

隠しても隠せないくせきみからの音符を待つてのぞいたポスト

たくさんのおい出と距離を飲み込んでポストはりんごのように熟れゆく

あなたにはあなたの世界新しく書かれた名前にはじけるソーダ

新しい花が咲いたと手紙にはあつて心に咲く白い花

きみのいる南の空に入道雲ひまわりの切手ていねいに貼る

おしゃべりな渡り鳥です北の空から飛んでくる君の手紙は

人は眉をひそめるだろう Oggi 派が CLASSY 派に恋をしている

釣書は見るまでないねだつて皆おとこなんですよ三十路レスビアン

ウエディングドレス並んで着る夢をワイン二杯目では言えるかな

同窓の結婚式でひっそりとからまる指に祝福がない

幸せの型に上手にはまったくと拍手されても音がしないよ

凹凸が噛み合わないままのせつくすもだつて愛しいなんどもあいして

ふにやふにやになるまで触りあつてからハイヒール拒否してるつま先

後悔は愛し愛されるものか『おんなですもの』『おんなですもの』

春森糸結

@junju_usako



桜望子

@MaZraMen

秋山生糸

@kito25



湊屋

@mie_natoua3710

シャツとブラウス

今日のため買った水色ブラウスに夏をはらませ降り立つホーム

おそろいが苦手の僕の白シャツも夏色の君に染められていく

さつきまで雨粒だった水たまり避ければふれる無防備な腕

あっ同じ体温だって気がついて掴んだ腕を離せずにいる

不意打ちの体温がもう心地よく狭い道だけ選んで歩く

照り返すアスファルトから目をそらす君はいつから見つめていたの

肩越しに百日紅まぶしく咲いて 汗かきだって言っていましたね

目をあけてキスしてたんだ離れぎわ「きれい」は景色のことだったんだ

夕暮れの翼

あなたというボタンを押すとき指先にしずかに宿る夕ぐれの鳥

夕立はあなたを外へ 水槽のなかの電話につたえたい音

横顔のあなたに似ている雲のした白いパラソル押し広げ待つ

地上までとどけば水になる雲と同じつばさの白だ 光よ

体内を流れる水もひかりだと思えば淡く透けゆく両腕

かたほうの掌でいい湖の鍵をまわして夜明けまで来て

いつか見る暁のはずベランダの三日月錠をゆっくり開ける

恋人が手紙に記す「扉」から光りだす朝 窓辺に眠る

千原こはぎ

@kohagi_tw

×

天国ななお

@momonijam

佳丘一穂

@KUYURRA

×

東夏江実

人魚観察日記

ひまわり

窓を抜けきらきら飛び込む月光と好きなさかなのかたちを話す

青空とヒマワリ畑の境目をちらちらゆれる麦わら帽子

ここを海にしてあげようね つまさきにひれのかたちの影をつくつて

「この子にも陽が当たるようにしてあげて」ちびひまわりを抱きしめている

壁を泳ぎまわってる僕の影をみて書いた人魚の観察日記

私より空から遠い君だけど陽が当たってるみたいに光る

灼けてゆく肌はだなればこの胸はひとの呼吸器をさめてをりぬ

ひまわりの群のざわつく大風が麦わら帽子を舞い上がらせて

白い肌が鱗のように泡立って咳に混ざった体液を吐く

さようなら麦わら帽子さようなら夏さようならさようなら、今

ひたと添ふ手首の それがねむりだと告げないままで瀕してゐるの

俯いてこぼれた涙は種になる また新しく生まれるために

動かないからだの外で乱反射はじめる光 遠のいてゆく

芽が出たら花が咲いたら見に来てね涙の音は忘れずいるね

ひるがへる影 まなぶたを閉ぢさせることやはき手で終へた日記よ

濡れた頬を撫でてゆく風 似ていても今とは違う道を探しに

榛 瑞穂

@mainaisuburo

×

本山まりの

@mthmthrn

御糸さち

@MEATSachi

×

井倉りつ

@uta.litz

蒲地珈琲店



狼のいるギムナジウム―BL相聞歌

夏の日の朝日がいやにただしくて猫背のままで歯を磨くこと

(聞いているの?) この曲好きって言葉にも猫背の君はスマホをさわる

黙っとくべきか言うべきか迷ってる やたらと奥の方で響く「好き」

君が為まだ痛くはない溜め息とやたらと甘い珈琲飲みほす

珈琲の黒い水面へおちながら砂糖あかるく香をはね散らす

黒いサイフォン周りの景色と君のこと上映するだけの小さな星だ

ねえぼくと彼女のいのちを縊り合わせ一本にしてほしい少しだけ

一本糸ほちけないよう端っこを団子結びで私の勝利

湖水にはギムナジウムと氷島ひょうとうときみをいざない秘密の基地へ

薄き背を抱き寄せて聴く足枷の鎖の奏つ鋭き旋律を

狼の血をひくぼくは嘘つきさ二枚の舌の巻きつつ甘し

凶鑑伏せ交わすくちづけ表紙には箔押し金の水面のひかり

クリスマス男子寮にはふたりきりケーキへささる蜜の蝋燭

鉄てつの匂いは雄に似た匂い檻の向こうを月が漂う

剛毛の汗に濡れたる夜のけもの金の蔓草からむ椏の木

崩されて頬張られ溶けて吸われゆく熱に焦がれた削氷けずりひとして

みちか × 町田もちこ
@michika_n @Mucuze

笛地静恵 × 砺波 湊
@mundburg @10733710

ふたりの人魚

明け方にのどを潤しファの音ではじまる歌をあなたへ送る

無機物なメールの揺れを押さえつつからだの鍵を外すファの音

首筋に歯を当てるとき体温がじわり上がって宵闇にいる

挽ぎとつた無花果のよう月のない夜にふたつが水面に浮かぶ

滝壺にふたりの人魚 鈍色の鱗をはらはら散らして踊る

暗がりにきみのおいは強くなり潮騒といま呼応している

さりさりと濡れ髪ひかり更けるころ赤く火星は燃え尽きますか

白桃を血のように食べ終えたあと月へと帰ってゆくのでしょ

花言葉

あの辺がたぶん九州、知らんけど アベノハルカスから見る西のほう

知られずにすむならそれで 夕焼けのまぶしさになほ見晴るかす海

眩しさはふいに私に届きたり水の匂いに咲くアネモネの

さびしさは届いてしまふさびしければ花言葉さへ信じてしまふ

都合のいいものばかりが見えている花は幾つも花言葉を持つ

感情が幾つも咲いてゐる夏よしをれるまへに君に会ひたし

萎れるものは種子を落としていくでしょう芽吹きの時のはるけさを持ち

アネモネの種子をこぼせばはるけさはるけさのまま陽を受けてゐた

森 緑 × 白井 健康

@murasaki_48

@muraqimono

森本 直樹 × 染野 太朗

@naohai_mori

@smitaro

Revolver &

チェスなんて知らねえ俺のビショップで女も鍵も開けりゃいいだろ
いや、おまえは聞いているはずだ。短針が長針に乗る音をなんども

張り込みをしてる時間と娼婦らを待たせる時間とつちが尊い

待っているほうが助手席、待たれてるおまえのほうがつまり助手だな

お、星が動いた。そーいや天動説はアリストペニスってやつ戯言

天才はひとりで長く喋るものだろう 銃口に舌を入れるな

俺はたぶん死ぬんだろうな この指輪より口径の小さな銃で

キングにキングをぶつけて倒す喜びにここはいつから崖だったのか

メシエ31星雲

ゆるされてもゆるされなくてもすぐわれてしまうわたしのアイスクリーム

許されたつもりで拐うひとさじにクッキーアンドクリームの子

約束に埋もれぬようにもうひとつラムレーズンの惑星を積む

真四角のカフェテーブルに向かい合う公転周期の異なる二人

少しずつとけてくアイス 合言葉 雨垂れ アンドロメダの星たち

交わらぬものが幾度と混ざり会う丸い世界を君ごと愛す

重なったアイスみたいなわたしたちあくまで同じコロンの上で

傾いたクッキーアンドレーズンを受け取る準備 カップにも夏



ナイス害 × 平岡直子

@NiceGuuuj

@tricot7

月丘ナイル × 川庭多機構

@njle_222

@njakatsuki

ふたりの空

梅雨のないあなたの街は濁ることない青空が広がりますか

梅雨はないけれども雨は降る 空はわたしのころくらいに濁り

濃い雨が降り続いているこの街で憂いた顔のあなたが見たい

憂うなら濃い雨じゃない ことばでは伝えきれない恋に降られて

恋が降るあなたの空にくっきりとした特大の虹をかけよう

虹のかかるわたしの空に君の空かさねればほら梅雨が終わるよ

雨と雲、晴天と虹すべて持つあなたが生きる街で生きたい

どんな空もすべてを持つという秘密かかえて君を迎えに行こう

小川けいと × 大塚亜希

@ogwkit

@tani1979

あなたを攫ふ光芒

手紙なら夕と夜とを裂いてゆきポストで睡るあなたに触れる

果たされなかつた約束のやうにある詩句のほんのすこしの饒舌を愛す

手の皺は筆を執るたび増えてゆく皺の奥には密かな祈り

ひらく手紙のいちめんの花かき抱いて活けるいまにも割れさうな花瓶へ

カーテンをわづかに開ける 窓なんて開けなくたってひかりは漏れて

ゆふまぐれ 外の世界を思ひつつ紅茶にミルク注げばさみしき

窓辺にてあなたを攫ふ光芒になるゆめをみたてをとつてみて

ゆきの甘さのあなたのささやきみたいには攫はれないけど手をつながうか

高橋 鳩 × 岐卓亮司

@orange100juice

@Rujijifu

祭囃子

華やいだ祭りのきみに逢いたくて車を飛ばす海までの道

まとめ髪半端にほどく夕立よ愚かな夢も流してほしい

きみの住む街に驟雨は続くらし天気予報のラジオが刺さる

正解こたえなら知ってるけれど知るもんか祭囃子に背を向けてみる

またしても祭囃子に導かるわれの大人をすべて捨てたし

約束の場所で見上げる大輪の花は教える やさしい嘘を

仰ぎみるきみの視線を追いかけて瞬時ののちに大輪は消ゆ

遠い夏 背中を熱に包まれて祭囃子をただ聞いている

ねむれない同盟

とめどなく流れ落ちる夜 わたしには眠れる場所が見当たらず

眠っても眠らなくても朝は来る自転を止めることはできない

朝はまだとおくて闇はひとりにはせまくて君に電話している

手をつなぐように話しているうちは夜明けが遠いことを忘れる

とめどなく流れる君の声を縫い夜はちいさく結ばれていく

結び目に触れて僕は夢を見る夜明けのような仄明るさの

少しずつ解かれていく君の手の余韻いとし朝はすぐそこ

おはようと送り合ってるねむれない同盟ではないはずなのに

太田 青磁

@seijota

×

麦野 結香

@yuka_mikut

満島 せしん

@seshimitsushma

×

ナタカ

@natakauta

甘い雨垂れ

小さめにすればよかった並ぶ傘の中心距離が少し余って
大きめでよかった君が近すぎず肩も濡らさず歩ける傘で

間違ったふりして肩を寄せてみたい演技じゃうまくよるけられない
肩を抱く準備はとっくに出来ている指が揺れてしまったまに

教えたい気持ちを愛と呼んでいい？雨のブーツやわらかいこと

雨垂れのカーテン向こうは見えなくて濡れてようやく分かるのだろう

丸くって好きだよ傘も雨粒もその深爪もぜんぶが見たい

切りたてのつま先で触れるきみの頬やと気づいた黒子のあること

夏休みプラレール組み立て講座

ガイドラインみたいにマスキングテープ貼ってここから先はずいぶんと夏
づえーというあれは山羊かい？マスキングテープを剥がすときに出す声

むき出しのあかるい夜空ビニールの襞を剥がして雨傘をひらく

傘の柄のハテナを集めていた仙人まだ海岸にいるのだろうか

辺境のハテナボックス延々とIUPキノコを崖へ押し出す

ルイージが変なキノコを食べてから九号線が凄いいみたいね

予防線が凄い角度で張られててよく見たらそれは獅子座のかたち

獅子座って言ってたじゃない八月の二十四日に照れ笑いで

九条しよーこ

@shoco_chocola



文車雨

@ganjumed102

しま・しましま

@simashima9



こりけケリ子

@coric_k_riko

近くて遠い



手に取った本は奥付から見ると小声で言った古書店の隅

奥付をいつも見ているくらいにはあなたの声は聞こえています

読まれませぬ本をどっさり送りつけやがて疲れて秋のため息

大切な本を私にありがとう少し自分を嫌いになれた

デコルテやデニールなどを教わって僕はすいぶん賢くなった

デカルトやデニールなどを教わって全部忘れてキレイになった

鞆から黒くて古い傘を出す君が世間に濡れないように

どっついても内なる世間に雨は降るあなたの傘はうれしいけれど

ドトールのろけ合戦夏の陣

華やかなスカートの黄を似合うって君が言ってくれるなら買う

きみが撮るわたしはいつも笑って満月みたいだしきみが太陽

おそろいで買ったグラスを丁寧に包んでもらうときの微笑み

渡したいお土産はかり増えていく今日もたくさん流れ流れ星

手を繋ぐときの確かさ 輪郭をひかせて夕焼けを眺める

安心してこういうこともちもちのおしりにそっと顔をうずめる

すこしずつ似ていくことのうれしさがおそらくは愛、並んで歩く

わたしきつとそのうちちやうりおこになる iPodから流れるYuming

なつお

@sneezer1972



さやこ

@tankaka385

長月優

@spicadrop_



たかはしりおこ

@nashkrkr

八月の太陽高度

七夕の夜

ねえ眼鏡貸して。あたしがかけたときとどことなくちびるするのか見せて

初めてのキスを交わしたその夜にひとりこっそり復習をする

くちびるはただのシャッター歯と舌の殺意を漏らさぬように濡らして

夢の中予習した時とは違い月の光に恥ずかしそっで

濡れてゆく睫毛、木漏れ日、窓枠が切り取るものが罪だとしたら

太陽の光は眩しすぎるよねふたりなかなか顔も見れない

もう北へ帰るのですね僕じゃない誰かのくちびる振り解けずに

星空を一緒に見よう七夕は丸いドームのプラネタリウム

ハスカップ味のいろはす含みつつ舌の記憶を馴染ませている

本当はリアルな夜空ふたりして眺めてみたい星見えずとも

気がつけば好きになってた八月の太陽高度を測る眼差し

学校の屋上夜中に見渡そう星より街のネオンが綺麗

かんべきな逢瀬でしたね真夏日にあなたの靴の先はまるいね

七夕の願いは君ともう少し近づきたいな キスしてもいい？

ターミナルEカウンターで泣きだした君がいてもいなくても 東京

ひらがなの最初の二文字を意識していいかどうかをドキドキ迷う

笹谷 香菜

@sstkn



星野 さいくる

@greenchariz

瀬戸 さやか

@st_sjk



@kaizen_nagoya

@kaizen_nagoya

夏速度

絶対であることその一 潮風は二人乗りした夏の腕から

おそろいで買った水着の色褪せて海の匂いがしないわたしは

きみの海、きみの空そのふた色はいつか私へ雨を降らせる

泣いたこと話してくれてコココーラ回し飲みして渚で会えば

言葉より水がまぶしい去る後ろ姿を濡らす雨ならとくに

傘のない二人でいれば終わらない話が得意なのはあなただ

蝉しぐれの無音の中で始めよう今年限りの永遠、ここで

かき氷、木霊、麦わら、夏休みのあなたの髪を結ってあげるよ

たえなかすず × 嶋田さくらこ

@suzusuzu2009

@sakirako0304

海へ

九十九里 霞の中に光る朝「ここにいます」と刻む文月

幸せを人と比べてしまったから帰ろう九十九里の海まで

「おかえり」と「いつてらっしゃい」繰り返す波打ち際はやさしいふるさと

海に帰す君も私もウミガメもきつとおんなじ熱量を持ち

かえすがえすありがとうしか言えなくて波に乗せてく刹那の舟に

舟に乗り沖に漕ぎ出す 白妙の月も一緒に連れて行こうよ

白妙の月とならんだゆりかごの波にゆられるゆらゆらゆるる

故郷を離れて進む海原も幸せと気づく友がいるから

民生 × 木蓮

@tamibontami

@FirstFruits1125

黄桃綺譚

耽溺をそそのかす本の帯の背の〈綺想世界〉に迫る夕暮れ

黄昏の書架に充ちゆく隠り世を彷徨すれば招く手のあり

隠り世へ招く手を取るこんなにも貴女の肌は冷たかつたか

黄桃の重さつめたさ庄寛の糺糊なるままに頬を噛み合ふ

甘噛みの果てに熟れゆく果実あり朝の陽射しに笑窪は深む

陽の滴りに砂糖の城の崩れゆくやうに女を一人亡くしき

ただ人が人としてあるむづかしさあなたの中に太虚がある

いつか太古星の息吹として逢はう幻想古譚此れにて仕舞

ロミジュリ公園

忘れもの取りに近道 公園の噴水そばにつがいの蜻蛉

たれそかれ？ 一声かけた 蜻蛉の目をくるくる回す君が振り向く

鹿威しに似た君のテノール響いてる 紫苑あふれて公園は詩画

ネイルからアイラインまで夢二だね 叶わぬ道と……だがそれでイイ

腰つきは「黒船屋」の黒猫になる 視線にじわり湿る綾絹

ダ・カーポを月に願って吠えたんだ 綾なす心は雨でぐじゃぐじゃ

もう一度生まれ変わるなら犬がいい 君の遠吠えもう止んだかな

凌霄咲の花に面影よみがえる つなぎあうなら君の手じやなきや

歌をひらがなにしてます 一番最初の文字を順に読み 次に一番最後の文字も同じように読んでみて下さい ワンニャーちなみに「や」は「じや」のように直前の文字もあわせませす。

田上連樟

@chirstysouls75



黒井真砂

@higureja

豊増 美晴

@to.yo.yo.n



雨虎 俊寛

@amefurashi3107

完全無敵の日々



海へゆく窓

赤いリップをひと塗りすればもう無敵明日のぶんまで日記を書いた

天窓をそめる青さに呼び出されいま君の名がよぎってゆきます

絵はがきの青いインクはあさがおの赤いインクは薔薇のいろみす

呼ぶだけで詩かもしれないそのつちへ仔犬みたいに走ってゆけば

ミニ薔薇が咲きはじめるとこの庭は無慈悲な蔓と棘の王国

森へ着きました 岬へ向かう砂利道に飽きたら蹴って進んで

そよかぜが吹いたら無敵だねきみのブドウの蔓のような巻き髪

灯台のあなたがここにいなくてもかざしつづけている手のひらを

SHIにきいたら完璧ネコの巻き髪をコテできれいにつくる方法

指の隙より雨そそぎきらきらと美しいものすべては空から

「わたしなら」となげに言えはいいのかな SHIからGoogleNowに変わる日

うらがわを知り終えてなおうつくしい月だよタワーマンションの上

かわるかわるよわたしは変わる早ければ明日か明後日にはカンペキに

あかつきは風に流されこの眠さだけが残って いま行く、待ってて

聞いてみたい昨日のわたしどつでした？もし明後日のきみに会ったら

おいで。おいで。表紙としての窓をあけいっせいにしろはと飛ばすから

月の子

@tsukinoko18



雀來豆

@jacksbeans2

のつちえこ

@tuchinoco622



杜崎アオ

@morisaki.ao

はじまりの時は今

陣風の君は突然あらわれて魂ごと吾を連れ去っていく

友達でいい、魂に触れられる場所であなたに寄り添っていたい

寄り添って歩く夕焼け空の下握った君の手はあたたかい

夕焼けのせいにしておく赤らんだ頬二度くらい上がる体温

かたい芽がほころぶように笑うからつられて頬がゆるんだ 好きだ

碧い瞳は気弱な我を貫いて信じあうことでふたりは始まる

あざやかに世界が色を変えていくもつと話をしよう、ふたりで

こいびとよ一緒に夢を生き抜こう負けそうな時も側にいるから

犬飼あき × 淡海わこ

@wanko_aki

@oniwako_

夜半の電話

かすかなる毒を含みて染みゆけり夜半の電話に交はず言葉は

面白い話だけして五時間を過ごしてなおも一人の部屋だ

諍ひのいきさつなどを聞きながら窪みの多き爪を切り終ふ

これからのことは一つも話さずに減らし続けるミルクコーヒー

果つるまで互ひ違ひに諍ずると苦き歌甘たるき歌

聴き取れないくらいの声で歌われる天国に行くためだけの唄

天国は遠しと思ふ明け方につがひの鳥の声ぞ聞こゆる

世界から足を離していた夜のおしまいで待っている明烏

もりのさと × Y川

@Wonderful_Maze

@clonecogamato



時がめぐれど変わらぬ仲の2人2年目また駅で

風の色

ねえもつと速く進んでくれないか？ 僕らの駅で君が待つてる

君を待つ駅の時計はサボリ魔で針が9へとまだ届かない

(いよいよだ) ホーム改札ダッシュして愛しい君へ叫ぶ「ただいま！」

駅前でドラマもしないことをするまっすぐばかな君が……うん、好き

喜びがあふれだしてく幸せだ君といられるただそれだけで

嫉妬とか寂しさだとか君がいるだけで消えてくやっとな消えてく

久しぶり待たせてごめんねこの夏はずっと一緒にいると誓うよ

一緒ならいつもの街も夏色でいつか駄弁った店まで歩こ

由良のとの舵たえながら西風の吹きゆくままに流れ行かばや

西風に(後ろの正面) スカートの裾は乱れて(たあれも居ない)

わが来ぬときやかに見えぬ裾を吹く西風や汝が裾を染めらむ

スカートの裾を裾から両膝をそれからわたしを染める風待つ

吹き過ぐる裾をしるけき香に染むる女郎花さく野の風の色

女郎花さく野の風の色になら教えてもいい本名その他

けしきふけ雁音づれて行く野とて君に咲き向く花の一輪

一輪の花と目が合う あなたの飲む水の名前を知りたくおもう

悠佳里

@jukari_rito

×

ルオ

@ruo129

佐藤博之

@Z_Bozhi

×

西村曜

@nsrnakira

Re:短歌

51組102名による
返歌をテーマにした短歌集

発行：2017.08.08
短歌：ご寄稿くださった皆さま
タイトル案：嶋田さくらこ
企画・編集・制作：千原こはぎ

